

「政権交代の夏へエンジン全開！」全構成組織の総力を結集！！



連合長崎は6月29日(月)に構成組織代表者・執行委員合同会議を開催した。冒頭、小石会長は「現在の情勢は、若干、世論の風が吹いていることは事実だが、これまで戦後60猶予年、与党の団体、組織の集票システムは未だ健在であり、簡単に政権交代はできない。長崎では非常に厳しい戦いを強いられていると認識している。われわれが一丸となって、あと1歩、輪を広げることができなければ、私たちが目指す政権交代はない。

7月が勝負の時であり、まず1人10人支持者獲得の達成を周知徹底し、更に輪を広げる運動を力強く進

めていこう。」と構成組織代表者に今後の取組みの強化を訴えた。その後、現在の情勢、予想される日程、今後の取組みなどを確認し、また、来年に迫った「核拡散防止条約(NPT)再検討会議に向けての1000万人署名活動」に対しての協力依頼を行い、総選挙勝利へ向け「ガンバロウ三唱」で会議を締めくくった。

知人・友人紹介者・後援会加入目標
組合員一人10人獲得目標
7月中旬までに早期達成を！！

「^う倦まず!^{たる}弛まず!地道に!平成維新(政権交代)は長崎から!!」

2010年度政策制度要求論議開始!

連合長崎では6月30日に第3回政策委員会を開催し、2010年度政策制度要求の論議を開始した。

会議冒頭、田端政策委員会委員長から、「われわれの政策制度要求を実現していく上でも、来る解散総選挙で、政権交代を勝ち取らなければならない。極めて重要な時期に突入した。各委員の今後のご協力をお願いしたい。政策制度要求の実現に向けてがんばっていきましょう。」と訴えがあった。

会議では、

1. 「県からの再回答の報告」
2. 「連合政策制度学習会」延期について
3. 「公契約条例推進委員会」の設置について
4. 「2010年度連合長崎政策制度要求」(たたき台)

についての論議を行った。

県からの再回答では、特に前進した回答はなく、2010年度の要求に再度盛り込みながら、県に対して実現を求めていくことを確認した。

「連合政策制度学習会」については地方委員会において、7月中の開催を提起していたが、総選挙日程が定まらないこともあり、選挙後の開催を再度、執行委員会に提起することで了承がされた。

公契約条例推進委員会の設置については、連合本部からも全地方組織での立ち上げを要請されていることもあり、また県議会に対しても「公契約基本法制定の意見書」を提出していることもあることから、政策委員会の中に設置することを承認いただき、次回の執行委員会に報告することを確認した。

次に、各産別からの政策要求、県の再回答、連合の方針・重点政策を踏まえた13分野46項目からなる「2010年度連合長崎政策制度要求(案)」たたき台が提起され、第1～3部会において8月末までに論議し、9月の第4回政策委員会の中で、まとめていくことを確認した。

◎ 2010年度政策制度要求(たたき台)の特徴点

- ①母子・寡婦等雇用対策の明確化
- ②派遣・非正規対策、雇用保険改正の周知徹底の明確化
- ③ユニバーサルデザインの都市計画への盛り込み
- ④妊婦検診助成の継続的増額
- ⑤高齢期の新たな保険制度の制定
- ⑥生活保護対策の強化
- ⑦介護対策の充実・強化
- ⑧障害者自立支援の見直し
- ⑨奨学金制度の充実
- ⑩学校給食制度の充実
- ⑪就職差別事象の検証
- ⑫学校選択性の対応
- ⑬地方負担金の廃止
- ⑭公的サービスの充実
- ⑮地産地消の推進
- ⑯有料道路の値下げ
- ⑰核兵器廃絶
- ⑱日米地位協定の抜本見直し

県からの09再回答。前進なし!

「確かめよう！あなたの雇用保険・社会保険」 「今こそ政策と政治の転換を！」街頭行動実施！



連合長崎と長崎地域協議会は「確かめよう！あなたの雇用保険・社会保険」および「今こそ政策と政治の転換を！」の「STOP THE 格差社会」街頭キャンペーンを7月1日(水) 18:00から、浜の町大丸前で行った。

当日はあいにくの雨模様で人通りが少ないのではないかと心配されましたが、関心は高く、用意したパンフとティッシュは30分もたたずに、配布が終了してしまいました。連合長崎執行委員、長崎地域協議会役員の皆さんも道行く人から「がんばって」などの声をかけていただいたり「連合や組合がしっかりがんばら



んば！」と叱咤激励など的一幕もありました。今後各地協でも同様の取り組みなどが行われます。



アジア・アフリカ支援米田植え情報！

6月27日(土)・28日(日)に五島・島原・北松ブロックでもアジア・アフリカ支援米の田植えが行われました。



北松ブロック



島原地協

キリシタン弾圧・差別の実相を探訪!! 【人権フィールドワーク!】

2009年7月4日(土)「部落解放共闘県民会議09人権フィールドワーク」を開催しました。

ルートは西彼半島の外海・枯松神社、崎戸歴史民族資料館(井上光晴文学室)・炭住跡や横瀬浦を訪ね、キリシタン信仰、弾圧の歴史、被爆者や被差別部落の問題を取り上げた作品を執筆した作家・井上光晴の思想・信条に触れ、キリシタン布教・南蛮貿易の拠点であり、長崎の原型となった横瀬浦を回り、悲しい差別の実相と歴史を探訪するフィールドワークとなりました。

参加者は、長崎に比較的近い場所でありながら、なかなか訪れない場所でもあり、いま一度、人権や歴史の検証に感慨深く、メモを取りながら一日の学習を終了しました。

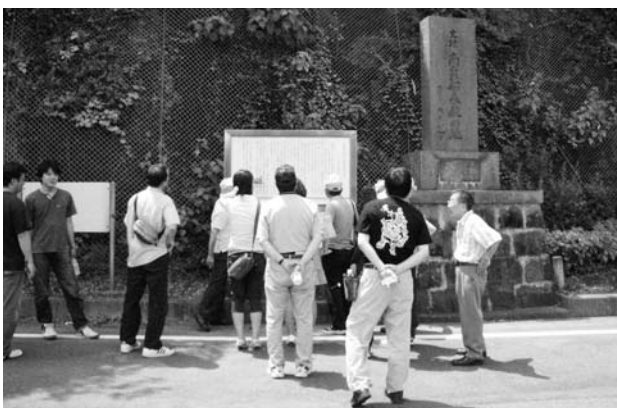
帰りのバスの中では、あらゆる差別を許さず、人権を大切にする世の中を構築するため、学習し、行動していくことを参加者全員で確認しました。



信長に謁見したフロイス



被差別問題を数多く執筆した
井上光晴文学室



南蛮船来航の横瀬浦



キリシタン信仰の枯松神社



長崎よりも古くから横瀬浦には
思案橋・丸山があった



福音・中浦ジュリアン記念館

平和の道。力あわせて大きな前進。 2009平和行動in沖縄

「平和の道。力あわせて大きな前進。」のスローガンのもと、「2009連合平和行動in沖縄」が那覇市を中心に6月23日～25日の日程で行われた。

連合長崎代表団22名も、構成組織・各県地方連合会代表団1,500人と共に参加してきました。

連合は「沖縄・広島・長崎・根室」と続く一連の平和行動の目的を「つくり、学び、ひろげる」を基本として、動員型ではなく、仲間たち一人ひとりが参加し、

共に作り上げる運動として実施してきており、戦後64年目となった本年も47都道府県全県が結集し、「沖縄戦の実態と米軍基地の実態、平和の尊さ」を学び、全国の仲間、次世代に広げる、大規模な集会となった。

第1部では、「平和な地球を求めて」のテーマの下、若者たちのメッセージ、平和朗読劇、歌で綴る沖縄の戦中戦後と沖縄戦の悲惨さについて、沖縄方言が飛び出す笑いや涙の中で平和の尊さを訴えるプログラムが展開されました。

第2部の平和式典では、連合を代表して古賀事務局長が「沖縄戦の惨劇を忘れてはいけない。また風化させてはならない。米軍基地が集中する基地問題についても、日米地位協定の抜本見直しが必要だ。この集会を機会として、戦争をできる国にしてはいけないことを固めたい。私たち一人ひとりが平和の大切さを地域から職場から声をあげていこう。」と訴えた。

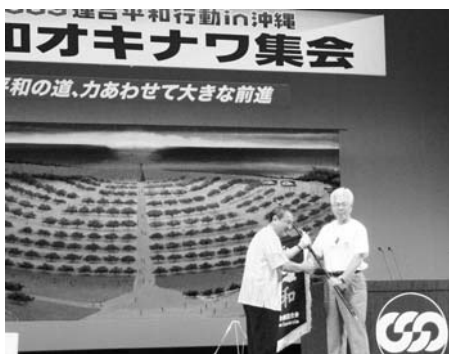
連合長崎代表団22名



平和集会



平和交流会



ピースリレー



平和の礎・長崎の碑

来賓あいさつなど行われた後、ピースリレーが沖縄から次の平和行動の地・広島に引き継がれ集会が終了した。

引き続き行われた平和交流集会では、400人の参加のもと、琉球舞踊・演武などが披露され、全国の仲間との親睦を深めた。

翌24日は、長崎独自のフィールドワークを自治労沖縄県本部の池原さんのガイドで南部戦跡を中心に学習を行い、18時から「米軍基地の整理・縮小と日米地域協定の抜本見直し」を求める集会と県庁前から牧志公園まで47都道府県全県の旗と参加構成組織の旗

をはためかせデモ行進を行った。

長崎代表团も沖縄の梅雨明け前の蒸し暑い中、揃いの連合長崎Tシャツから汗が滴り落ちながらすべての行動を完遂しました。

参加者の中からは、「沖縄戦の悲惨さが実感できた。」「今後も平和行動に積極的に参加していきたい。」などの声が寄せられました。

次は「広島」そして「長崎」と暑い夏の平和行動となりますが、長崎集会を大成功させ、より連合長崎としての平和行動の強化をしていきましょう。(森田)



ひめゆりの塔



クラシンジョウの壕



海軍司令部壕跡



日米地位協定抜本見直しを求める集会



平和の礎



黙祷



デモ行進

